

1 単元名 インターンシップに取り組もう

2 単元設定の理由

高等部では、平成17年度より教育課程別学級編成（コース制）を実施している。I 課程では卒業時の就労を想定して、自分で健康管理や金銭管理を行い、将来の生活設計ができる（家庭生活をする力）、社会規範やルールを理解し、社会的な対人関係を築いていける（社会生活をする力）、職業の社会的役割を理解し、場面や人に応じた対応ができる（職業生活をする力）という将来の姿を目指して活動を行っている。

卒業後のよりよい生活のためにあげた“職業生活をする力”に近づくために、I 課程では職業科を週11時間設置し、高等部1年生から3年生までの縦割りで3つのグループ（フードサービス、オフィスサービス、クリーンサービス）で活動を行っている。各グループの業務の知識・技能の向上はもとより、それぞれの活動を通して、実生活及び実社会において活用することができる一般常識や知識・技能及び態度を総合的に身につけることができるよう、実践的な作業に取り組んでいる。働きながら、働く上でのルールやマナーを身につけるとともに、働くことの意味ややりがいも感じて、働き続ける力を身につけてほしいと考えている。

今年度 I 課程に在籍する生徒は23名で、本校中学部からの入学者が3名、他20名が中学校より入学している。生徒は各グループに配属され、年間を通して活動する。配属にあたっては、I 課程担当教師による話し合いにより、各生徒の将来に必要なと思われる技能を習得するためでなく、人とかかわりやコミュニケーション能力（人間関係形成能力）、道具や材料の使い方や作業能力（情報活用能力）、判断力や行動力（将来設計能力・意思決定能力）等を総合的に考えてグループを決定している。

オフィスサービスでは1年生3名、2年生2名、3年生2名の計7名で活動をしており、封筒印刷や名刺作成等の業務に取り組んでいる。また、校内での業務の他に昨年度から週に1度、市役所（サテライト教室）でインターンシップに取り組んでいる。業務内容としては、廃棄用書類の回収・シュレッダーがけ、印刷の受注・納品、メール便の仕分け・配達その他、市役所職員から依頼のあった軽作業等を行っている。インターンシップの前後にはインターンシップでの目標設定と反省を行う機会を設定し、それを繰り返すことで次のインターンシップでの改善と目標達成に繋げられるようにしている。

校内の活動だけでなく実際に校外に出て働く経験を通して、①相手や場に応じて適切に人とかわることが出来る力（人間関係形成能力）を伸ばし、②仕事への責任感ややりがいを感じるようになってもらいたい（将来設計能力）。また、③仕事に取り組む際には手順表や受注確認表等を活用することで、出来る限り自力で仕事に取り組み、依頼された仕事は見本の通りに仕上げられるようにする力を身につけてもらいたい（情報活用能力）。さらに、④ビデオで自分達のインターンシップの様子を振り返ることで、自分で自分の課題に気づき、改善に向けて常に自分の目標をもって仕事に励む態度を養っていききたい（意思決定能力）と考えた。

インターンシップやその振り返りの活動を通して、将来職業活動を営む上で様々な人とかわる力や、仕事の遂行力を高めていく意識を育てたいと考え、本単元を設定した。

《単元におけるキャリア教育の主たる観点》

<人間関係形成能力>	・場に応じた挨拶をしたり、適切な言葉遣いや表現でコミュニケーションをとったりして仕事に取り組むことができる。
<情報活用能力>	・依頼を受けた仕事を、見本の通りに仕上げることができる。 ・手順表や確認票を見ながら機械を扱ったり、依頼を受けたりすることができる。
<将来設計能力>	・市役所の方から感謝される体験や自分の仕事認められる経験を通して、仕事にやりがいや責任感を感じるができる。
<意思決定能力>	・自分の課題や良くできたところに気づき、次のインターンシップの目標を立てて取り組むことができる。

3 目標

- ・市役所の方からの依頼内容や教師からの指示を理解して取り組むことができる。 [知識・理解] [技能]

- ・自分の目標や課題解決に向けて、意欲的に取り組むことができる。 [関心・意欲・態度]
- ・効率よく作業するための環境設定や協力の仕方を考えて取り組むことができる。 [思考・判断・表現]
- ・場に応じた挨拶や適切な言葉遣いでコミュニケーションをとることができる。 [思考・判断・表現]

4 学習計画(年間を通して)—385時間扱い(年間を通して)

- ・封筒業務…120時間(1年生は200時間)
- ・市役所でのインターンシップ…140時間(1年生は60時間)
- ・インターンシップの反省…125時間(本時は81時間目)

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・自分や友達の作業の様子を振り返り、働く態度や作業方法について適切に評価することができる。
- ・より良い作業方法や仕事の対応に向けた改善策を話し合い、次回への改善方法を考えることができる。

(2) 生徒の実態及び個人の目標

氏名	本時の目標に関する状態像	本時の目標
A	・集中して話を聞いていることが難しい。自身の活動について感想を述べる ことができる。	・インターンシップを振り返り、頑張ったことについて発表することができる。
B	・反省会の話の全てを理解して聞くことは難しいが、反省内容を振り返って発表することができる。	・インターンシップで頑張ったことや目標を発表することができる。
C	・反省会の話の全てを理解して聞くことは難しいが、反省内容を振り返って目標を立てることができる。	・インターンシップで頑張ったことを発表したり、課題の改善方法を考えたりすることができる。
D	・自己評価が高くなりやすく適切な自己評価が難しい。自分の作業の様子について、良くできた点や課題、次回の目標を考えることができる。 ・教師の投げかけをもとに、より良く業務にあたるための改善案を考えることができる。	・他者や教師の助言を受け入れながら、適切な自己評価をすることができる。 ・より良く業務にあたるための改善案を考え、教師の投げかけや話し合いをもとにより良い改善策を決めることができる。さらに、次回のインターンシップに向けて取り組むことを決め、確認することができる。
E	・前回の活動の課題点全てに自分で気づくことは難しい。 ・考える時間は長くかかってしまうが行動の適切・不適切の判断、改善策について考えることができる。	・教師の問いかけや投げかけをもとに、インターンシップでの課題や改善点に気づくことができる。 ・業務にあたるための改善策の中から、教師の投げかけや話し合いを通して、より良いものを選んで決めることができる。さらに、次回のインターンシップに向けて取り組むことを決め、確認することができる。
F	・前回の活動において出た課題について自分で気づくことは難しいが、自分たちが目標として決めたことについて反省することができる。 ・いくつかの改善策の案の中から一番良いものとその理由を考えることができる。	・教師の問いかけや投げかけをもとに、インターンシップでの課題や改善点に気づくことができる。 ・課題や作業に対する改善策を考え、次回のインターンシップに向けて取り組むことを決め、確認することができる。
G	・場に応じた臨機応変な対応をすぐに考えることは難しいが、ビデオや写真を観て自分の対応を振り返り、教	・教師の助言を受けて、場に応じた適切な対応の仕方を考えることができる。 ・他者に対し、適切な助言をすることができる。

<p>師の助言を受けながら改善点を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や他者の作業について適切に評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良く業務にあたるための改善案を出し、話し合うことで、次回のインターンシップに向けて取り組むことを決めることができる。
---	---

(3) 準備・資料

インターンシップのビデオ・写真、振り返り表

(4) 展開

学習の内容及び活動	児童(生徒)への支援の手だて(かかわり)・キャリア教育との関連
1 始めの挨拶をする	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に挨拶を促す。
<p>2 作業や市役所の方への対応の改善策について話し合う。</p> <p>(1) インターンシップでの場面について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題点や改善点についてはビデオや写真を見せることで、全員が該当場面を確認できるようにする(情報活用能力) ・ビデオを観る際には事前に見せる部分を決めておき、注目する部分を分かりやすくしておく(情報活用能力) ・周囲や全体の状況判断が必要だった場面や作業方法・コミュニケーションにおいて改善が必要な場面等、生徒に気づいてもらいたい課題のあった場面についてビデオを流す。 ・以前に話し合った目標やその改善に関わる内容である時には、これまでの振り返り表を確かめるように促す。 ・周囲や全体の状況、個々の作業方法、コミュニケーションにおいて良い点と改善した方がよい点を考えるよう生徒に伝えることで、ビデオを観るポイントが分かるようにする。 ・ビデオや写真で提示した場面について関係する生徒に説明を促すことで、生徒全員がビデオの状況を分かるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(評)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオで提示されている場面について、どのような場面であるかを知ることができたか。(A・B) [観察] ・ビデオで提示されている場面について、どのような場面であるか改善点は何かを知ることができたか。(C) [観察] ・自分たちの様子を確認し、作業方法について良い点や改善すべき点に気づいて発表することができたか。(D, E, F) [観察] ・自分たちの様子を確認し、周囲の状況や各自の作業の様子から良い点・改善すべき点に気づいて発表することができたか。(G) [観察] </div>
<p>(2) 改善策を考え、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話し合いではできるだけ教師の考えは伝えず、生徒Gを中心に生徒同士が話し合って改善策を考えられるようにする。 ・生徒から意見が出ない時には例を挙げたり、想定される改善策をいくつか提示したりし、その中で自分たちはどう思うかを考えられるようにする。 ・A・B・Cに対しては生徒から挙げた意見を教師が改めて提示し、その中でどれが良いと思うかを問いかけることで生徒の考えを引き出すようにする。また、Cに対してはどうやったら改善できるかを問

	<p>いかけ、改善方法を考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D・E・F・Gが意見を出した時には、なぜそう思うのかを生徒Gに確認するよう促し、周囲が改善の理由を納得した上で改善策を考えられるようにする。 ・F・Gに対しては、話し合いの中で挙げた意見を集約し、次回以降でのインターンシップに向けて改善策を決めるように促す。生徒のみで考えることが難しい場合には、以前の話し合いの時にどう考えてどう目標を立てたかを振り返って参考にしたり、それぞれの意見を基にするとどう考えられるか、なぜそうする必要のあるのかを一緒に考えたりすることで、仕事に対する意識を高め、課題を受けて目標を立てられるようにする。 ・Gに対して話し合いの中で出た意見をまとめ、次回からどうしていくかを全員で確認するように伝える。(将来設計能力) <p>(評)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の確認を基に、話し合いで挙げた課題について分かり、改善方法と目標を確認することができたか。(A・B) [観察] ・話し合いの中で課題の改善策を考えて意見を述べることができたか。また、決定した改善方法と目標について確認することができたか。(C) [観察] ・課題及びなぜその課題を改善する必要があるのかということに気づき、改善策を考えることができたか。 (D, E, F, G) [観察] ・課題の改善策について必要に応じて教師や先輩の意見を基にして考え、自分の意見を述べることができたか。(D, E) [観察] ・仕事としての役割や責任から改善方法や目標を考えて意見を述べたり、全体の意見を集約して改善方法と目標を決めたりすることができたか。(F, G) [観察]
3 振り返り表に反省点や次回にむけての確認事項を記入する。	・白板にまとめた項目を、振り返り表に記入するように促す。
4 終りの挨拶をする	・生徒に挨拶を促す。

6 T2以下の役割

指導場面	担当者	具体的な役割・児童(生徒)への支援の手立て
2-(1)	T2	・ビデオ操作を行い、話し合いの議題となる場面を生徒に見せる。
2-(2)	T2	・Aの集中が途切れた場合には、現在の話し合いの状況を確認したり写真を提示してどう思うかを個別に問いかけたりすることで、Aが授業を再度意識できるようにする。
3	T2	・机間指導をし、必要に応じて振り返り表記入の助言をする。

7 座席表

